

2025 年 12 月 14 日		(朝 10:30-11:30)
聖 日 礼 拝		司会 城尾マコト
前 奏	全員黙祷 「新聖歌 23 番」	
招 詞	ヨハネ第1手紙 4 章 18 節(新 380 頁)	司会者
頌 栄	「新聖歌 60 番」	
主の祈り		全 員
使徒信条		全 員
交読文	新改訳 43 番 詩篇 136 篇 913 頁	司会者・全 員
聖 書	出エジプト 20 章 18~20 節(旧 103 頁)	司会者
讃美歌	♪新聖歌 206 飼い主わが主よ	
祈 祷	司会者による祈り ♪子供達の祝福の為の賛美 484 番	
讃美歌	♪新聖歌 209 慈しみ深き	
メッセージ	「あなたを守るためにきました」	城尾淳一
讃美歌	♪新聖歌 76 もろびとこぞりて 証とお知らせの時間	
献 金	新聖歌 55 番	
頌 栄	新聖歌 63 番	
祝 祷		城尾マコト牧師
後 奏	全員黙祷 新聖歌 59 番	
<div><div></div><div></div><div></div></div> <div>Youtube Facebook HomePage</div>		

出エジプト記 20 章「あなたを守るためにきました」

出エジプト記 20 章 18~20 節

この箇所は、神様の圧倒的な臨在(雷・稲妻・ラツパの音・山の煙)の中で、民が恐怖に耐えきれず、モーセに仲介を求めて遠く離れた場面です。そこでモーセは民に「恐れるのではなく、畏れなさい」と語りかけます。

民の恐怖(18 節)

雷・稲妻・ラツパ・煙は、古代近東における神様が現れるときの定番の表現です。神様は、人間が理解できるように、この「定番の表現」を用いてご自身を現されました。民は「遠く離れて立った」とありますが、これは「恐怖で逃げた」のではなく、「恐怖を感じながらも、ギリギリのところで踏みとどまった」のです。何万人もの大群衆が、パニックにならず秩序を保った。これは出エジプト記 18 章・19 章での組織的・霊的準備の成果でした。神様は群衆がどう反応するかをご存じで、モーセに備えをさせていたのです。

仲介者への懇願(19 節)

恐怖の限界に達した民は、モーセに仲介を求めました。今までも奇跡は見えてきましたが、それはエジプト人や敵に向けられたものでした。しかし今回、神様の圧倒的な臨在が自分たちに直接向けられたのです。これは全く違う恐怖でした。わかりやすく言えば、鉄砲を持ってる人が味方だと気持ちは大きくなりますが、鉄砲を向けられるようなものです。彼らの恐怖は深い神学的反省からではなく、ただ物理的な恐怖でした。しかし、この体験には深い意味がありました。神様は、ご自身の栄光を現すことで、「神様を畏れる」ことを知って欲しかったのです。

制御できる神への渴望

イスラエルの民は 400 年エジプトに住み、エジプトの偶像に慣れ親しんでいました。それらは目に見え、制御できる、人間のスケールに収まる神々でした。しかし、本物の神様は制御できません。古今東西、人間は「制御できる神」を求めてきました。戦前の日本でも、国家神道のもと天皇を現人神として祀り上げ、権力者が利用しました。ホーリネス教会は「唯一の神は一人だけだ」と主張し、特高警察に捕らえられ、拷問を受けました。自分に都合の良い「制御できる神」を造り上げることは、神様への冒涇であると同時に、人間を傷つける罪深い行為です。

あなたを守るためにきました(20 節)

神様は一見危険に見える形で現れますが、本質は愛と優しさで満ちています。神様は罪びとを滅ぼすためではなく、罪びとにならないよう守るために現れてくださったのです。神様が怖いのは、私たちを突き放すためではありません。私たちが罪によって傷つかないように、愛をもって守るためなのです。イエス様の十字架による「完全な愛」は、刑罰への恐怖を打ち消します。どうぞ今日、この『恐ろしくも優しい、あなたを守る神様』の愛をしっかりと受け取って帰ってください。神様はあなたを愛してくださっています。

城尾淳一